

〔報告〕

## 赤ちゃんにやさしい病院で母乳育児を体験した 母親にとっての母乳育児の意味

服部 律子<sup>1)</sup> 布原 佳奈<sup>1)</sup> 名和 文香<sup>1)</sup> 秋山 寛子<sup>2)</sup>

### The Meaning of Breastfeeding Experience of Mothers Who Received the Care at the Baby Friendly Hospital

Ritsuko Hattori<sup>1)</sup>, Kana Nunohara<sup>1)</sup>, Fumika Nawa<sup>1)</sup>, and Hiroko Akiyama<sup>2)</sup>

#### I. はじめに

母乳育児支援は、少子化対策が緊急の国民的課題となっている現在、母子の心身の健康を守る上で、保健医療関係者のみならず地域住民が協力して取り組むべき重要な課題となっている。平成19年3月の健やか親子21の指標に関する研究会では、「出生後1か月時の母乳育児の割合」がベースライン調査時の44.8%から17年度の調査において42.4%と減少傾向にあり、引き続き母乳育児を増加させる取り組みが必要であるとされている。今後は特に出産施設での支援と退院後の母子の支援の重要性が指摘されている。

母乳育児の確立や継続に関しては、影響する要因に関する研究が多く<sup>1)~3)</sup>、母乳育児を体験した母親の気持ちを重視した研究は少ない<sup>4)</sup>。母乳の良さを体験者の母親の実感から明らかにしていくことは、今後の母乳育児支援の意義を考えるうえで、有用な資料となると考え、今回、「赤ちゃんにやさしい病院 (BFH Baby Friendly Hospital)」で出産し母乳育児を体験した母親から母乳育児の意味を明らかにする試みを行った。

#### II. 対象と方法

対象は、A県内の2か所の「赤ちゃんにやさしい病院」で出産し母乳育児支援を受けた、出産後1年になる母親25名である。2か所の「赤ちゃんにやさしい病

院」では、児の1歳の行事において、A医院では13名、B医院では12名の協力が得られた。行事に参加した母親の全数は、約60名であった。調査時期は平成17年7~8月であった。

方法は、母親の個別な体験を明らかにするという目的から半構成的面接による質的記述研究を行った。データ収集は、調査対象の了解を得てテープに録音し、逐語録を作成した。質問項目は、妊娠中から母乳で育てたいと思っていたか、妊娠中に役に立った指導、家族や周囲の人の母乳育児に対する支援、入院中に受けたケアでよかったこと、よくなかったこと、退院後に困ったこと、母乳で育てたことについての思いである。

調査対象への協力依頼については、A医院では、研究期間中に医院の行事である1歳のお誕生日会に出席した母親に協力を依頼し、B医院では、B医院からよびかけて1歳になるおしゃべり会をひらいているが、そこで研究協力を依頼した。

倫理的配慮については、会の始まる前に、医院の担当者から大学の母乳育児に関する研究依頼について、匿名性の保障やデータは研究のみに使われること、面接のデータは大学で責任を持って保管することまた協力しなくても不利益はないこと、について説明をしてもらった。そのうえで、研究の趣旨を了解して協力していただける母親について、会のあとで残ってもらい面接を実施した。

1) 岐阜県立看護大学 育成期看護学講座 Nursing in Children and Child Rearing Families, Gifu College of Nursing  
2) 京都府医師会看護専門学校 The Nursing School of Kyoto Medical Association

面接は、研究者2人で行った。面接場所は、会を行ったホールの一角で、面接を待ってもらっている人たちとは離れた場所で行い、プライバシーに配慮した。

データ分析は、面接内容を録音したテープを逐語録におこし、質問項目に関係ある文脈を取り出し整理した。その意味内容にしたがって、1つの意味内容は1データとして類似するものをまとめてカテゴリー化した。母乳で育てたことについての思いに関しては、思いを自由に語ってもらった中から、母乳育児の価値ある内容としての意味を取り出した。カテゴリー化したものは、入院中の支援と母乳で育てたことについての思いであった。質問によっては項目別でまとめられるものもあり、妊娠中の母乳育児の希望、妊娠中の指導と周囲の支援、退院後困ったことや周囲の援助については、カテゴリー化はせず、項目別に量的に分析した。本文中ではカテゴリーは【 】、項目は〈 〉で、実際の表現は「 」で表した。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 対象の概要

対象者25名のうち初産婦は14名、経産婦は11名であった。児の年齢は1歳0か月、母親の平均年齢は32歳であった。母親の妊娠の経過に異常のあったものはなかった。帝王切開は1名であり、24名は経膈分娩であった。対象となった25名のうち、24名が1年後も母乳育児を続けていた。面接の所要時間は平均30分であった。

#### 2. 妊娠中の母乳育児の希望

妊娠中の希望としては、25名のうち、〈あまり母乳で育てたいと思わなかった〉〈何も考えていなかった〉という回答がそれぞれ1名ずつあったが、あとの23名については、「母乳で育てたいと思っていた」という内容であったが、〈できれば母乳で育てたい〉という思いをもっていた母親が最も多く、17名であった。また〈是非とも母乳で育てたい〉という母親が3名、〈母乳で育てるのが当然〉という母親が3名であった(表1)。〈できれば母乳で育てたい〉という回答内容については、「期待はしていなかったが母乳という気持ちはあった」「母乳で育てられたら楽だし、免疫とかいろいろいいこと聞いていたから自分の母乳ができればいいな」「やっぱり子どものためにはおっぱいが一番いいと聞きましたので、

できたらと思い・・・」など母乳で育てたいが自信のなさが窺える内容であった。

〈母乳で育てるのが当然〉という内容については、「母乳で育てるのが当然」「当然母乳っていう感じ」などミルクの選択肢がないというものであり、母乳でなければならぬというような強い意思をあらわすものではない。〈是非とも母乳で育てたい〉という内容には「上の子で苦労したからこの子は是非母乳で」「3ヶ月までは絶対母乳で」と母乳育児に強い意思がみられるものであった。

表1 母乳で育てたかったか n=25

できれば母乳で育てたい	17
母乳で育てるのが当然	3
是非とも母乳で育てたい	3
何も考えていなかった	1
あまり母乳で育てたいと思っていなかった	1

#### 3. 妊娠中の指導と周囲の支援

妊娠中に役に立った指導というのは23名が病院からの情報と答えていた(表2)。病院からの情報については、具体的な回答のあったものについて分析すると〈乳房乳頭の手入れの方法〉や〈母乳の利点の説明〉〈自信をつけさせる励まし〉があげられた。

周囲の支援については、〈特になかった〉が21名であり、〈家族も母乳を勧めてくれた〉は4名であった。

表2 妊娠中に役に立った指導 n=25

病院からの母乳の情報	23
病院と友だちからの情報	1
いろいろな人から情報を得た	1

#### 4. 入院中の役に立った支援

入院中の支援では、【頻回授乳のすすめ】【直接的な授乳方法の指導】【何度も見に来てくれること】【出生直後の授乳体験】【気持ちを支え励ます関わり】【家族への支援】の6つのカテゴリーに分けられた(表3)。【頻回授乳のすすめ】では「別に出る量を気にせずにくわえさせることに意味があるからって言われた。とりあえずくわ

表3 入院中に役に立った支援

頻回授乳のすすめ
直接的な授乳方法の指導
何度も見に来てくれること
出産直後の授乳体験
気持ちを支え励ます関わり
家族への支援

えさせるだけでいいっていうのをいわれて」「欲しいときに欲しいだけあげればいいといわれたので、とにかくあげた」「欲しがったら欲しがるときに何度でもどんなときでも飲ませるっていうふうに。時間を気にしないで、やれた」などの回答があった。

【直接的な授乳方法の指導】については、マッサージなどの乳房乳頭のケアや抱き方、飲ませ方があげられた。「マッサージしてもらったり冷やしてもらったりした」「うまく吸わせられなくて、でも吸わせ方とか抱き方とかいろいろと教えてくれた」「おっぱいの出し方とか飲ませ方とかを常にちゃんとできているか教えていただいた」「マッサージとかですかね。その面でやってもらったのと、あと飲ませ方っていうか、そういう面ですかね。いろんな方向から飲ませた」などの回答があった。【何度も見に来てくれること】では「入院中は何で泣いているかわからなくて、泣くたびにナースコールを押してすぐに来てもらっていた」「ここは産んですぐ同室なので、とにかく母乳あげる抱き方とかあげ方とかわからなかったの、困ったらすぐ来てもらえる」「昼間より夜の方が回数が多いから、夜呼んでも来てもらえる」「入院中顔をのぞきにに来てもらうだけで、楽になった。1対1でいるより安心」などであった。【出産直後の授乳体験】には、「帝王切開のときでも、うまれた直後からずっとくわえさせてくれた」「おなかの上ののって赤ちゃんがすぐにおっぱいを吸ってくれるっていうのが嬉しかった。うまれてすぐにでも吸えるんだって」「産まれてすぐにおなかの上に子どもを乗せておっぱいをすぐ吸わせることをしたこと」などがあげられた。

【気持ちを支え励ます関わり】には、「あまり出ないし、痛いしすごく悩んでいたのだけど、看護婦さんのやさしい言葉で大丈夫なんだと思った。初めてっていうことをわかってもらえるようなことばや、私だけではない、みんなこうなんだからみたいな、あっそうなんだって安心させてくれた」「いろいろと励まされた。特に一人目って不安ですよ。よくあんなこと聞いたなっていう些細なことでも、一つ一つ教えてもらった」などであった。

【家族への支援】については「面会のときに、周りはいちちょっとでなくなるとミルク足せ、というけどミルクは足さずにおっぱいだけでやるっていうことを言ってもらえたのはよかった」という意見があった。

## 5. 入院中に役に立たなかった支援

役に立たなかった支援は特に思いつかないという人がほとんどで、「看護師さんによって言うことが違っていたが、あまり気にならなかった」という人が1名あった。

## 6. 退院してから困ったこと

退院してから困ったことには、〈特になし〉が最も多く13名であった。困ったことでは〈どれだけ飲んでいいのかわからない〉が2名、〈乳頭亀裂や傷〉が2名、〈母乳不足感〉が2名であった(表4)。これらの問題については、どの人もその都度病院に電話したり、健診のときに聞いて解決していた。

表4 退院後に困ったこと n=25

特になし	13
どれだけ飲んでいいのかわからない	2
乳頭亀裂や傷	2
母乳不足感	2
断乳したあとのおっぱいの処置	1
左右の出が違う	1
母乳が出なくなったが、吸わせる回数が増えるとよく出るようになった	1
退院後、1ヶ月の母乳不足	1
乳腺炎	1
6ヶ月まで母乳だけでいいか	1
搾乳の仕方	1
薬のこと	1

## 7. 家族や周囲の人の援助

家族や周囲の人の援助については、〈特に援助はなかった〉が最も多く、15名であった。援助については〈母乳以外のことは手伝ってくれた〉が6名で、〈食事に気を遣ってくれた〉は2名、〈母乳が出ているよと励ましてくれた〉〈夜も起きて手伝ってくれた〉がそれぞれ1名であった(表5)。〈特に援助はなかった〉というなかには、「できるならやりって感じで。旦那の親には寝れないとか言われた」や「母乳だと援助がないって思う。ミルクだったらやってって言える。母乳だと自分でやらなくてはならないから、他の面で援助してもらおうと…だから自分のことだけでもやってもらうようにした」という回答があった。

表5 家族や周囲の人の援助 n=25

特に援助はなかった	15
母乳以外のことは手伝ってくれた	6
食事に気を遣ってくれた	2
母乳が出ているよと励ましてくれた	1
夜も起きて手伝ってくれた	1

## 8. 母乳で育てたことについての意味

母乳で育てたことについての意味には、【からだを直接触れ合うことにより愛情が深まる】【一緒にいられる時間が長いことで子どもとの関係が深まる】【自分の力で育てた満足感・有能感】【幸福感や楽しさ】【楽にできる】の5つに分けられた(表6)。「からだを直接触れ合うことにより愛情が深まる」には、「自分のおっぱいからあげるのは、吸われてるっていうのもあるんだけど、すごく愛情がわくというか、探して吸いにくる時がかわいくて。これはミルクの人には味わえない」「おっぱいあげる時に、ずっと密着していたので、子どもの気持ちが読み取れるような気がする。訴えていることがわかる。信頼関係が築けた気がする」「吸ってもらおうとぎって気持ちいいんですよ。産んだときの気持ちよさもある。自分のおっぱいに手を添えながら飲んでる姿をみると、すごくいとおしい」「肌と肌の触れ合い。赤ちゃんとも母親にしかできないことだから。続けていく。赤ちゃんの吸いごちって、哺乳瓶ではありえない」などの回答があった。

【一緒にいる時間が長いことで子どもとの関係が深まる】については、「十分一緒にいられた。すごくよかった」「一人目だったらべったりいられたけれど、2人目だとそうはいかない。母乳あげてた分、その分触れ合いの時間が作れたかなって」「ここであまれてすぐからずっと一緒だったってことがよかった。母乳の方が、ずっと抱っこしてあげるとか・・・そういうの愛情を伝わってくるんじゃないかな」などの回答があった。

【自分の力で育てた満足感・有能感】については、「自分の力でここまで成長させられたって言う喜びとか満足感があります。ミルクと違って母と子の絆が深いかな」「母乳で育てている人は少ないんで、誇りというか自信になっている。特に1歳過ぎまであたえられたこと」「子どもが自分を頼っているっていう感じもある」「自分の中で愛情を注いだっていう感じがある」「いくら疲れていても、しんどくてもおっぱいせがみにくると、嬉しくってあげちゃう。頼りにされているじゃないですけど、求められているって感じがうれしいです」などがあげられた。

【幸福感や楽しさ】では、「おっぱいをあげているお母さんは、とても幸せだと思う。母親も気持ちがわいてく

表6 母乳で育てた意味

からだを直接触れ合うことにより愛情が深まる
一緒にいる時間が長いことで子どもとの関係が深まる
自分の力で育てた満足感・有能感
幸福感・楽しい
楽にできる

るような感じ」「授乳しているときが楽しい。こっちも心がおちつくし、この子も安心するみたいで。母乳で育てることができて幸せです」「はじめは飲んでただけだったんだけど、おっぱい触ってくる。吸いながら触る。面白いなって思った」などであった。【楽にできる】では、「手間がかからないこと、出せばすぐやれること」「母乳にしてよかった。経済的にも楽だし。荷物なんかも楽」という回答があった。

## IV. 考察

### 1. 妊娠中からの母乳育児支援

妊娠中からの母乳の希望については、平成19年度の「授乳・離乳の支援ガイド」によると、「母乳が出れば母乳で育てたいと思っていた」は52.9%であり、「ぜひ母乳で育てたい」は43.1%であった。今回の調査によると、母乳育児を推進している「赤ちゃんにやさしい病院」の利用者であっても「ぜひ母乳で」というのは少なく、「できれば母乳で」という母親が17名(68%)であり、母乳ができれば、という母親の母乳に対する自信のなさが窺われた。育児雑誌やインターネットなど育児情報は普及しているが、妊娠中からの母乳のイメージには、「辛い」「たいへん」など否定的なイメージも、肯定的なイメージとともにあげられており<sup>5)</sup>、母乳育児は誰でもできるものとしては受け入れられてはいないと思われる。

また妊娠中の支援や情報についても、ほとんどが、病院の母親学級などの指導によるもので、「母乳に関することは病院ですべて教えてもらった」という母親が多かった。妊娠中からぜひ母乳で育てたいという希望がある母親のほうが、そうでない母親に比べて母乳栄養の割合が高いことから<sup>6)</sup>、妊娠中から母乳の利点や乳房乳頭のケアの方法など繰り返し指導し、母乳で育てられそうなイメージを育てたり母乳育児への意欲を引き出すことが重要である。

### 2. 入院中の母乳育児支援

入院中の母乳育児支援については、WHOの「母乳育



児を成功させるための10か条について」にある「出産後30分以内に赤ちゃんに母乳を飲ませられるように援助する」「母子同室にする。赤ちゃんが母親が終日一緒にいられるようにする」「赤ちゃんが欲しがるときはいつでも母親が母乳を飲ませられるようにする」というケアの方針が、母親から評価された。【出産直後の授乳体験】では、出産直後の授乳により母親が新生児の能力に気づき、母乳を吸ってくれることに喜んだ体験が語られ、その気持ちが母乳をあげたい原動力になっているともいえる。出産後の母親は、分娩を終えた達成感があり児の泣き声や様子を目にする事で、母性感情は一気に高まるので、その時点での早期接触は、母親にとって強い印象となる。新生児が欲しがるときに母親が授乳する自律授乳は、常に児が側にいる母子同室によって可能となり、また多くのエビデンスによって、効果的であることが証明されている<sup>7)</sup>。出産後早期の場合、特に頻回の授乳は母乳分泌の促進に効果的であり、今回の調査結果でも、出る量は気にしなくても吸わせると出るようになると指導をうけて、ひたすら吸わせている様子が窺える。

また【何度も見に来てくれること】【直接的な授乳方法の指導】は、10か条でいえば、「母乳の飲ませ方をその場で具体的に指導する」にあたり、10か条のステップを実践していくことの有効性が確認された。大多数の母親は授乳に際して具体的な手助けを必要としており、特に抱き方や吸いつき方については、母親や児にとって正しい方法を身につけることが、母乳育児の成功に結びつくことが言われている。授乳の正しい方法といっても、その母親と児の共同の作業であり、出産後の個別な支援なくしては、その母子にあった授乳の方法を見出していくことはできない。また経産婦であってもはじめから丁寧に教えてくれた、といった評価も聞かれることから、母親が授乳の方法に自信をもてるようになるまで個別に関わっていくことは重要である。授乳の場面で関わるのが効果的であることから、【何度も見に来てくれること】は不可欠であるが、特に「夜も見に来てくれた」ことは母親の不安を軽減するのに有効だったと思われ、夜間の援助を強調する母親も多かった。

【気持ちを支え励ます関わり】については、母乳育児支援の基本的な姿勢を示すものともいえる。野口<sup>8)</sup>も母乳ケアの母親の評価について、「母親の気持ちの支持」

が大きな影響を示すとしており、やさしさや心配りなど気持ちに関わるケアの重要性を強調している。母乳育児の継続には母親自身の意欲が大きな要因となることから、母親の気持ちを支え励ますことは、入院中のケアのみならず、妊娠期から育児期においても必要である。

BFHの病院では、職員の母乳育児への取り組みが一致しているので、均質なケアが出来ると思われるが、施設内での母乳育児支援の場合、職員によって指導の内容が違ふことは、課題にあがるところなので、職員への指導は重要な点である<sup>9)~11)</sup>。

### 3. 母親にとっての母乳育児の意味

母親にとって母乳で育てたことへの意味について、【からだを直接触れ合うことにより愛情が深まる】【一緒にいられる時間が長いことで子どもとの関係が深まる】【自分の力で育てた満足感・有能感】があげられたが、これらの意味は、母乳で育てることによって体験できるものと言えるであろう。母乳育児を行うことにより母子関係や母親の子どもに対する感受性が深まることは従来から言われていることであるが<sup>12), 13)</sup>、母親の身体的な感覚もオキシトシンやプロラクチンの分泌を促し、母性意識を高めることが考えられる。授乳のたびに肌と肌が触れ合うことも、母親にとっては直接感じられる児の体温であり、スキンシップと言えるものだが、乳首を吸われる感じが気持ちいいもの、という母親の実感により積極的な感覚であり、その快感が愛情の深まりに通じるというのが母親の実感であった。授乳行為は出産と同様、身体感覚を通じた直接的な満足であり、歓喜の源であると言われている。身体的なつながりにより母子の愛着を深め、「母らしさ」を発揮していくことができることになるので母子の精神衛生上意味が深い<sup>14)</sup>。また母乳であれば、母親しか与えることができず、頻回の授乳をしていることも多く、時間的に長く一緒にいる状況である。乳児期の初期には特に母子がともにいることの重要性が再認識されている現在、母乳育児は母子が自然に共に過ごせる環境を作り出すものである。【自分の力で育てた満足感・有能感】については、先行研究<sup>15)</sup>にもあるように、自分に自信がもて母親として成長できる体験を母乳育児を通してしていると言える。母乳育児で達成感を得ると、その後の育児や女性としての生き方にも自信をもつことができるであろう。【幸福感や楽しさ】【楽

にできる】ということも、前述の【自分の力で育てた満足感・有能感】にも関連して、母親としての自信につながるものである。母乳育児については、「辛い」「ストレス」「面倒」など苦痛やマイナス因子もあると報告されている<sup>16, 17)</sup>。母乳育児の継続には努力を要することは多くあるが、頑張ったことが母乳育児の成功に結びつき、母親に自信を与えることとなれば、マイナスをプラスに転化できる。母乳育児の達成感が幸福感につながると考えられるが、それは女性の人生にとってもよい体験になるであろう。しかし母乳育児については、望んでいてもうまくいかなかったという、失敗体験として心に残ってしまったり、母親や児の健康上の理由から母乳があげられなかったりする人もいるので、そのような人々へのケアも重要である。

ここで、母親にとっての母乳育児の体験を、以上の明らかにされた意味から「母親としての自信や母子関係の幸福感」を視点として、図式化すると図1のように表された。「子どもと直接触れ合うこと」は母乳を吸われる体験として母親の体を通して感じる感覚であり、これは母乳でしか体験できない。また「一緒にいる時間が長い」ことも母親でしかできない母乳育児の特徴であり、時間的な接触の長さを感じられる感覚は、母子の結びつきを深める要因となる。そのような身体感覚や時間

感覚が愛情をより深めることに関係するであろう。そして母親の実感としては、母乳育児の「楽しさや楽にできる」ことや、「自分の力で育てた満足感や有能感」があり、そのような母親の気持ちのゆとりは母子関係を深めていく基盤となると考えた。

母乳育児の利点として、最近では母子の健康上の問題について、母乳栄養児の成人期の糖尿病や高血圧、肥満などの疾病予防や、母体の卵巣がん、乳がんの発症リスクの低下、糖尿病予防、骨量の増加など、さまざまな効果が指摘されている<sup>18)</sup>。今回は母乳育児に関する母親の主観的な体験の意味を分析したが、母乳育児が母親としての自信や母子関係の幸福感につながることは、その後の育児に不安やつまずきを少なくするためには、効果的であると考えられる。この点からも母乳育児を推進していく意義があると考えられる。

#### 4. 母乳育児推進の課題

妊娠中の周囲の支援や、退院後の周囲や家族の人の援助については、ほとんどなかったとする人が多く、周囲の人の理解と支援の不足が示唆された。退院後に自立して母乳育児ができる母親にとっては、援助の必要性は少ないとも考えられるが、周囲の理解がないという訴えもあるので、退院後の周囲の人の理解と支援への対応策は必要である。特に妊娠中に母乳育児について、家族や周

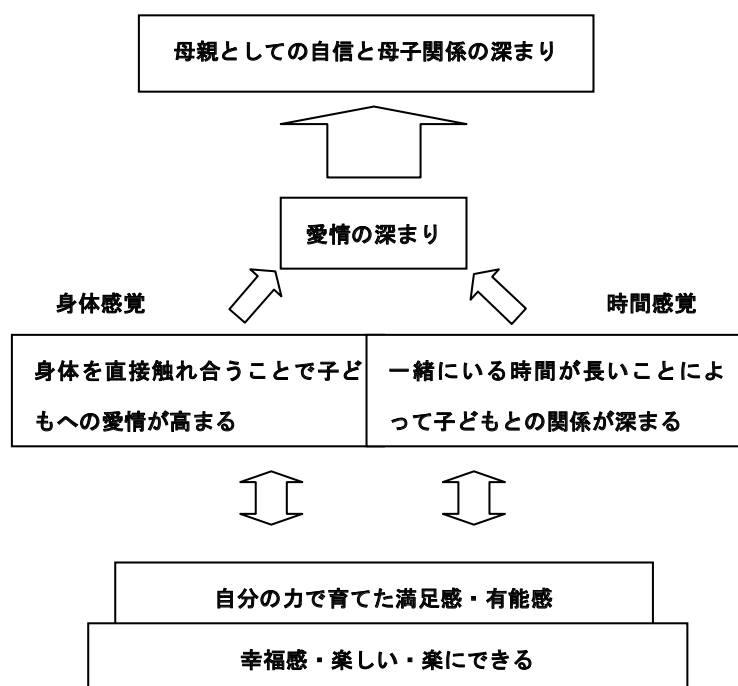


図1 母親にとっての母乳育児の体験

囲の人からの支援は少なく、家族への働きかけも今後必要であると考えられる。「健やか親子21」にも退院後の母子の支援の重要性について指摘されており、母乳育児には地域ぐるみで取り組むことが必要である<sup>19)</sup>。また母乳育児成功のための10か条においても「母乳で育てる母親のための支援グループ作りを助け、母親が退院するときにそれらのグループを紹介する」とあり、地域での支援は今後ますます求められるであろう。

## V. まとめ

母乳育児支援をうけ、母乳育児を体験した母親の支援の評価や母乳育児の体験の意味を検討した。母乳育児支援では妊娠中からの支援が有効であり、入院中は出産直後から、頻回に授乳をすすめられたことや、何度も見に来て、直接授乳方法を指導してくれたことを評価していた。また母乳育児の体験は、子どもへの愛情の深まりを感じ、母親としても有能感を感じていることがわかった。しかし、地域や周囲の人の支援については十分でなく今後検討していく課題と考えられた。

## 謝辞

今回の調査にご協力いただいた、お母様方に感謝します。また研究の場を与えてくださり、母乳育児についてご指導いただいた、高田医院の高田恭宏院長、高田恵美助産師、西川レディースクリニックの西川良樹院長、竹下妙枝助産師ら関係の皆様に深謝いたします。

## 文献

- 1) Kaneko Akiyo, Kaneita Yoshitaka, Yokoyama Eise, et al.: Factors associated with exclusive breast feeding in Japan — for activities to support child-rearing with breast-feeding, *Journal of Epidemiology*, 16(2); 57-63, 2006.
- 2) 仲村美津枝: 母乳栄養継続の要因と母乳育児推進のための看護援助, *琉球医学会誌*, 21(1); 9-17, 2002.
- 3) 河合幸子, 森 路恵: 当院における産後1ヶ月までの母乳栄養継続を妨げる要因に関する考察, *日本看護学会論文集 母性看護*, 35; 9-11, 2004.
- 4) 渡邊久美, 上別府圭子: 母乳哺育を6か月間継続した母親の体験, *小児保健研究*, 64(1); 65-72, 2005.
- 5) 池内佳子: 妊娠期から産後3ヶ月までの母親の「母乳イメージ」の変化, *母性衛生*, 44(4); 455-465, 2003.
- 6) 前掲2).
- 7) WHO: 母乳育児成功のための10か条のエビデンス, *日本母乳の会*; 82-87, 2005.
- 8) 野口眞弓: ケアの受けての認識にもとづく母乳ケア過程, *日本看護学会誌*, 19(3); 38-46, 1999.
- 9) 服部律子, 堀内寛子, 布原佳奈, 他: 県内産科施設の母乳育児の実態と課題, *岐阜県立看護大学紀要*, 6(2); 59-63, 2006.
- 10) 名和文香, 服部律子, 堀内寛子, 他: 赤ちゃんにやさしい病院 (BFH) における母乳育児支援の実態と課題, 7(2); 65-71, 2007.
- 11) 前掲7) 24-32.
- 12) MH.Claus, JH.Kennell, 竹内 徹訳: 親と子のきずなはどうつくられるか; 115-127, *医学書院*, 2001.
- 13) JR.Britton, HL.Britton, V.Gronwaldt: Breastfeeding, sensitivity, and attachment, *Pediatrics*, 118(5); 1436-1443, 2006.
- 14) H.Deutsch: 母親の心理 2 生命の誕生; 234, *日本教文社*, 1964.
- 15) 嶋岡暢希, 岸田佐智: 育児をしている母親の母乳に関する評価, *母性衛生*, 46(1); 163-169, 2005.
- 16) 同上15).
- 17) 同上5).
- 18) 大山牧子: 母乳栄養と成人期の疾病予防, *周産期医学*, 37(5); 639-643, 2007.
- 19) 越山茂代: 退院後の地域での母乳育児支援, *助産婦雑誌*, 56(6); 471-477, 2002.

(受稿日 平成20年11月10日)

(採用日 平成21年1月28日)